

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104 - 135	小学校	算数	算数	6
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	算数 616・617	みんなと学ぶ 小学校 算数 6年・中学校へのかけ橋		

1 編集の基本方針

わたしたちを取り巻く社会は、日々変化しています。子どもたちが、この先の変化の中でよりよい人生を歩み、よりよい社会を作りあげていく力を身につけていけるよう願っております。

その中で、算数という教科を通し、数学的・論理的な視点や思考を育みながら、さまざまな物事に対して多様に対応していき、他者とも協働的に取り組んでいけるようになってほしいと考えております。

この教科書では、そのような子どもたちを育てるために、教育基本法の理念に則り、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、以下のことに配慮しながら編集しました。

特色

1

みつける

身のまわりや、算数の学習の中から、問題を自らの力で「みつける」ところから、学びがはじまります。学びのはじまりは、生活の中や算数の学びの中など、至るところに潜んでおり、それらを見つめながら学習を進めることができるようにすることで、真理を求める態度を養い、自主及び自律の精神を養うことができるよう配慮しました。

特色

2

つながる

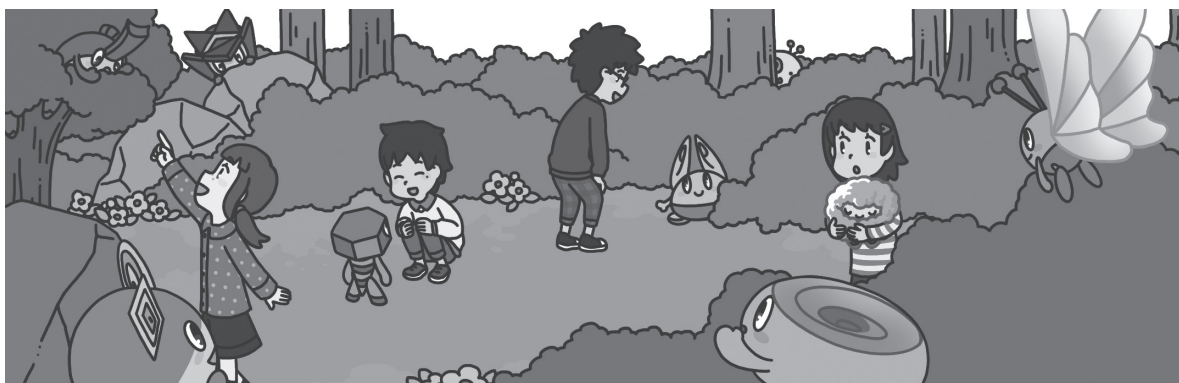
算数だけでなく、学びにはさまざまな「つながり」が大切になってきます。学びの中のつながりはもちろんのこと、人とのつながりにおいて話し合いや他者の意見を取り入れて、さらに自らの考えを発展させるなど、自他の協力を重んじながら、自らの能力を伸ばすことができるよう配慮しました。

特色

3

ひろがる

算数の世界は、子どもたちの身のまわりの至るところに潜んでいます。社会の中の算数、自然の中の算数、日本の中、世界の中へと、自分たちが身につけた知識がひろがっていくことを実感できるような題材を取り扱うことで、算数の世界がひろがっていく様子を子どもたちが実感できるよう配慮しました。





みつける

導入で問題をみつける

各単元のはじめに、「?を発見」のページを設定し、身のまわりの生活の中や、算数の学習の中から問題を発見することができるようにすることで、真理を求め、創造性を培う態度を養い、生活との関連を意識しながら、算数の学びに向かうことができるようにしました。

めあてをみつける

学習の流れの中で、児童が問題解決に取り組む場面や、問題を考えている場面、問題を解き終わったあとなどに抱くさまざまな問いが、学習の「めあて」になります。児童が自然に話し合いの中などから「めあて」をみつけることができるようにすることで、幅広い知識を身につけ、自他の協力を重んずる態度を養うことができるようにしました。また、それぞれめあてに対応した「まとめ」も、提示しました。

「見方・考え方」をみつける

問題に取り組むときに、さまざまな見方や考え方をしながら解決しようとします。これらの「見方・考え方」は児童がすでにもっているものであり、「考え方モンスター」として紙面に具現化したものを示すことによって、改めて自分の中にある「見方・考え方」を見つけていくことができるようになり、個人の価値や能力を伸ばし、創造性を培うことができるようにしました。

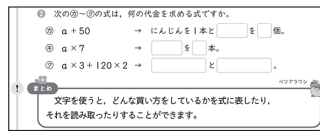
また、学年の最後では、その学年で見つけた「見方・考え方」をまとめるページを設定することで、これまで見つけてきた「見方・考え方」をまとめるとともに、どのような学習をしてきたかを振り返ることができるようにしました。



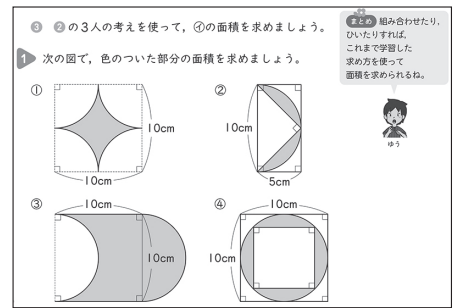
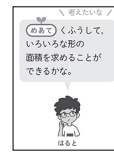
→ p.106



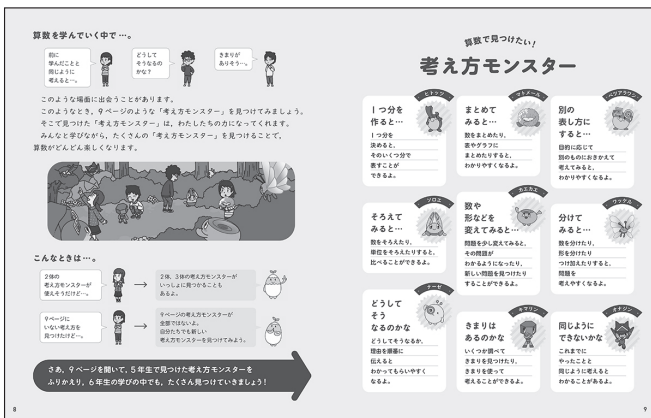
→ p.170



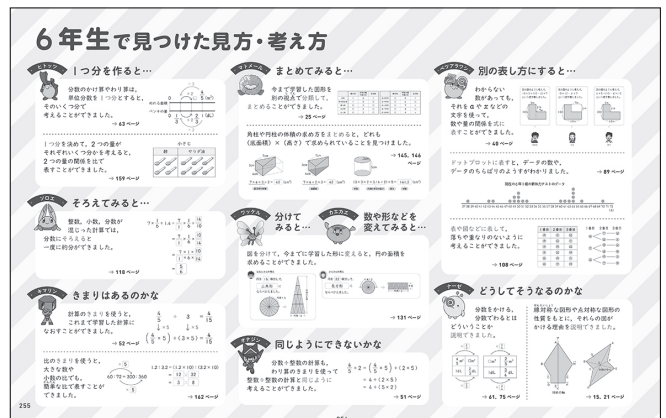
→ p.32-33



→ p.134-135



→ p.8-9



→ p.255-256

特色 2 つながる

学びがつながる

学びの中で、児童が「こんなときはどうなるのか」、「同じようにできるのでは」などと自然に問いをもつことができるような構成としました。特に児童の問いが次の学びにつながるような場面では、「つながりの？」(児童の問い)を吹き出しの形で示すことで、次の学びへの関心・意欲が高まり、真理を求める態度を養うことができるようにしました。

？ 角住や円柱の体積を求める考え方を使得、ほかの立体の体積も求められるのかな？

↓

3 いろいろな形の体積

1 右の図のような立体があります。体積を求めましょう。

5年生のときにも同じような形の体積を求めたね。

底面積×高さで求められないかな。

→ p.147・149

他者とつながる

さまざまな場面で他者の考えや意見を多様な考え方として示し、それらに触れる機会を設けたり、対話の場面を適宜提示したりしました。それらを可視化することで、個々で発見できなかった気づきや考えに触れることができるようになり、他者とのつながりを意識しながら学習を進め、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことができるようにしました。

1 紙の束があります。数えないでその紙の枚数を調べる方法を考えましょう。

紙の枚数が増えると、だんだん重くなっていくから…

紙の枚数が増えると、だんだん厚くなっていくから…

でも、紙の厚さや重さがわからないから、比例しているかどうかどうやって確かめればいいのか。

重さや厚さが紙の枚数に比例していれば、数えなくても求められそうだね。

→ p.187

特色 3 ひろがる

社会にひろがる

学びの中や生活の中から見つけた問題を解決しながら身につけた算数の知識が、また生活の中にひろがっていくことを実感できるよう、各学期の終わりの「算数をつかって」でSDGsに関連した題材を扱い、社会の形成に参画する態度や、環境の保全に寄与する態度、伝統と文化を尊重する態度などを養うことができるようにしました。

算数をつかって

デジタル・シティズンシップを身につけよう

インターネットは、いろいろな情報を簡単に手に入れたり、遠くの人とつながることができる。わたしたちの生活をよりよいものにしてくれている一方で、トラブルの原因にもなっています。トラブルにあわないようにするために、いろいろな情報を理解・活用し、賢く安全に使うことが大切だとおぼえています。

これをデジタル・シティズンシップと言い、下のようならの要素があると考えられています。これを身につけて、インターネットを正しく使い、活きるようになりたいと思います。

項目	ポイント	ポイント
1	2.2	4.2
2	0.5	0.8
3	1.2	6.3
4	2.4	3.6
5	3.9	14.9
6	5.2	14.2
7	10.9	17.8
8	16.9	17.4

① 上の表は、2020年に10年、中学、高校を対比し、インターネット上の情報を活用し、また、まとめること、デジタル・シティズンシップを身につけることなどからなる指標として作成されたもので、参考にしてください。

② インターネットを上手に使うとき、トラブルにあわないようにするにはどうすればよいでしょうか、考えてみましょう。

今の自分を知らう！

① 自分たちを育てるために「デジタル・シティズンシップ」が大切なことを学んだ。

② 正しく安全にインターネットを使うことができた。

③ 意見を伝えることができた。

④ よくがんばった自分をほめてあげよう。よくがんばった自分に、ほめることをプレゼントしてあげよう。

→ p.104-105

算数をつかって

バランスのよい食事を考えよう

わたしたちが生活をするためには、正食(せいじき)が必要です。この正食(せいじき)は、食べ物の種類がいろいろあって、その量も決まっています。食べ物の種類がいろいろあって、その量も決まっています。食べ物の種類がいろいろあって、その量も決まっています。

食品	たんぱく質	脂質	糖質	ビタミン	ミネラル
肉類	○	○	○	○	○
魚類	○	○	○	○	○
卵類	○	○	○	○	○
豆類	○	○	○	○	○
穀類	○	○	○	○	○
野菜類	○	○	○	○	○
果物類	○	○	○	○	○
海藻類	○	○	○	○	○
きのこ類	○	○	○	○	○
乳類	○	○	○	○	○
油脂類	○	○	○	○	○
調味料類	○	○	○	○	○
飲料類	○	○	○	○	○

① 食品の種類は、食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。

② 食品の種類は、食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。

③ 食品の種類は、食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。

今の自分を知らう！

① 食品の種類は、食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。

② 食品の種類は、食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。

③ 食品の種類は、食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。食品の種類によって決まっています。

→ p.210-211

算数をつかって

ハザードマップを見てみよう

ハザードマップを見てみよう。ハザードマップとは、自然災害による被害を減らすために、危険な場所を特定して、災害が発生したときに避難する場所や避難経路を指定する地図のことです。ハザードマップを見て、自分の住んでいる場所がどのくらい危険か、避難する場所はどこか、避難経路はどこか、を考えてみましょう。

① 自然災害の種類は、自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。

② 自然災害の種類は、自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。

③ 自然災害の種類は、自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。

今の自分を知らう！

① 自然災害の種類は、自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。

② 自然災害の種類は、自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。

③ 自然災害の種類は、自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。自然災害の種類によって決まっています。

→ p.228-229

中学校へのかけ橋

6年間の算数で学んできたことを「算数で見つけた見方・考え方」としてまとめなおすことで、自らその求め方を発見し、真理を求める態度を養うように配慮しました。また、後半では「中学校へのかけ橋」で中学校の内容に触れることで、幅広い知識と教養を身につけることができるように配慮しました。



→別冊表 2-p.1



→別冊 p.26-27

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全単元	<ul style="list-style-type: none"> 教材の選択にあたっては、児童の生活に根ざし、豊かな情操と道徳心が養われるように配慮しました。(第一号) 男女平等の精神にのっとり、教科書に掲載する男女児童の名前はすべて「さん」付けとしました。(第三号) 4人の成長するキャラクターを設定し、協力して課題を解決していく様子を示すことにより、自他を敬愛し協力を重んずる態度の育成に配慮しました。(第三号) 	全般
①対称	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県章や身近にある道路標識を扱うことで、我が国の郷土に目を向けることができるように配慮しました。(第五号) 	p.23～24
②文字と式	<ul style="list-style-type: none"> 文字を使った四則を、身のまわりの事象を使って例示することで、算数と生活の関連を意識できるように配慮しました。(第二号) 	p.31～33
③分数と整数のかけ算とわり算	<ul style="list-style-type: none"> 複数の考えについて、比較したりそれぞれのよいところを発表し合う活動を通して、自他の協力を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第三号) 	p.46, 51
④分数×分数	<ul style="list-style-type: none"> 整数や小数で成り立ったきまりが分数でも成り立つかどうか考察する課題を通して、真理を求める態度を養うことができるように配慮しました。(第一号) 	p.69
⑤分数÷分数	<ul style="list-style-type: none"> 多数の意見を紹介することで、個人の能力を伸ばすとともに、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第二, 三号) 	p.76～77
⑥資料の整理	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果について考察することによって、体力に興味をもち、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第一号) 	p.86～95
○算数をつかって	<ul style="list-style-type: none"> デジタル・シティズンシップの話題から、インターネットの利用に関して考察することで、健やかな身体を養うとともに、正義と責任を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第一, 三号) 	p.104～105
⑦ならべ方と組み合わせ方	<ul style="list-style-type: none"> バスケットボールの総当たり戦や、サッカーのトーナメント戦の試合数を考察することを通して、スポーツに触れ、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第一号) 	p.111, 115
⑧小数と分数の計算	<ul style="list-style-type: none"> 自己の体のつくりを知ることによって、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第一号) 	p.120

⑨円の面積	<ul style="list-style-type: none"> ・円の面積の求め方をそのまま提示するのではなく、操作的に行うことによって、自らその求め方を発見し、真理を求める態度を養うように配慮しました。(第一号) ・湖や古墳のおよその面積を求める活動を通して、郷土を愛する態度を養うことができるように配慮しました。(第五号) 	p.128～132 p.138
⑩立体の体積	<ul style="list-style-type: none"> ・衣装ケースなど、さまざまなもののおよその体積を求める活動を通して、生活と算数の関連をより重視できる態度を養うことができるように配慮しました。(第二号) 	p.150
⑪比とその利用	<ul style="list-style-type: none"> ・調理に関することを扱うことによって、幅広い知識と教養を身につけることができるように配慮しました。(第一号) 	p.158～162
⑫拡大図と縮図	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の縮尺を扱うことによって、幅広い知識と教養を身につけることができるように配慮しました。(第一号) 	p.181～182
⑬比例と反比例	<ul style="list-style-type: none"> ・コーラに含まれる砂糖の量を考察することを通して、自らの身体について考え、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第一号) 	p.197
○算数をつかって	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の栄養素の課題を扱うことで、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第一号) 	下 p.210～211
⑭データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化について調べることによって、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、国際社会の平和に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第四,五号) 	p.212～214
○算数をつかって	<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップについて調べ、自分たちの住んでいる地域について調べる課題を扱うことで、郷土を愛する態度を養うことができるように配慮しました。(第五号) 	p.228～230

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

○ユニバーサルデザインへの配慮

- ・全面的に UD フォントを使用することで、これまで以上に読みやすく、すべての児童が理解しやすい文字になるように配慮しました。
- ・すべての文章を分節改行にすることで、誰もが読み取りやすく、問題解決をすることや、それらを考察することに重点をおけるように配慮しました。
- ・カラーユニバーサルの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いをすることで、見やすく使いやすい紙面づくりに配慮しました。また、写真やグラフなどでは、色の名前を入れたり形を変えるなど、明確に区別できるように配慮しました。

○人権への配慮

- ・キャラクターや活動の場面などで、男女や特定のキャラクターに偏らないように配慮しました。
- ・いろいろな国の子どもたちを活動場面に入れることで、みなが平等に活動できるように配慮しました。

○ICT 活用への配慮

- ・タブレットなどの ICT 機器を利用した活動を行うことができる箇所には「QR コード」を付すことにより、デジタルコンテンツ等があることを視覚的に容易に判別できるように配慮しました。また、それぞれのデジタルコンテンツがどのような活動を行えるかわかりやすいよう、マークをそれぞれの活動に応じた形にすることで、使いやすさにも配慮しました。※ QR コードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。

○生活や日本の伝統文化への配慮

- ・児童の視野を、学年を追うごとに学校、地域社会、日本、世界へと広げていけるように配慮し、日本の文化、外国の文化を理解しようとする態度を養うことができました。また、それらの題材は、生活に深く関わる文化や環境といった内容を取り上げ、それらの基礎的な理解を養うことができるように配慮しました。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104 - 135	小学校	算数	算数	6
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	算数 616・617	みんなと学ぶ 小学校 算数 6年・中学校へのかけ橋		

1 編集上特に意を用いた点や特色

1 主体的・対話的に学びたくなる

問題解決をするとき、与えられた問題を解くのではなく、自分たちが解決したいと考えながら問題に取り組むことが、これからの生きる力に役立つ大切なことだと考えています。

そのために、単元全体の構成を、自分たちで問題や疑問を発見し、それを主体的・対話的に解決しながら学習を進めていくことができるようにしました。

単元導入は、「**？を発見**」のページを設け、日常生活や算数の中から、ふとしたときに感じる「？」に気づき、そこから本文の学習に主体的に取り組むことができるような構成としました。

各時間の「**めあて**」は、児童の素朴な疑問や本質に迫る疑問などが出るタイミングで、その場面に適した内容を提示することで、児童に寄り添った展開で授業が進められるようにしました。

「**まとめ**」は「めあて」に対応したものとなり、児童が気づいたことや見つけたきまりなどをまとめました。

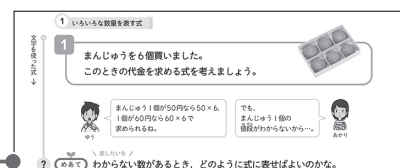
各時間の終わりでは、次の学習につながる児童の「**つながりの？**」を吹き出して提示し、それが次時の学習などにつながることで、さらに主体的に学びたくなるとともに、学びの連続性を感じ取れるようにしました。

単元末では、「**できるようになったこと**」で、これまでに学んできた知識・技能を確認し、さらに「**まなびをいかそう**」では、それらの知識を生きた知識として活用できるような問題に取り組めるようにしました。

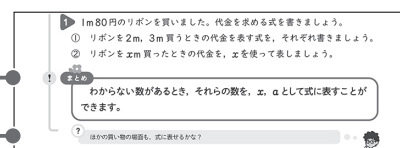
また、「**？を発見**」ではじまった単元の学習で、どのようなことを解決できたかを、単元の最後に「**？をかいけつ!**」としてまとめました。さらに、単元全体の学習を振り返ることによって生じた新たな問いを「**つなげたいな**」として提示し、児童が算数の世界を広げたいくなるようにしました。



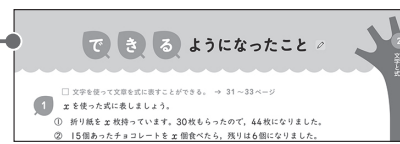
→ p.30



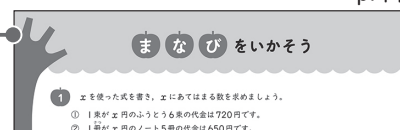
→ p.31



→ p.32



→ p.41



→ p.42



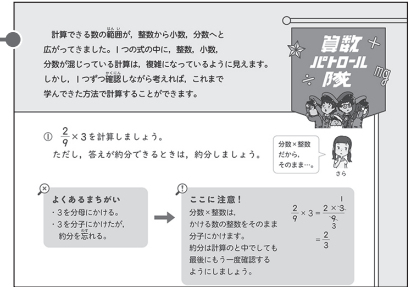
→ p.43

2 基礎・基本を身につけ、算数を深めたいくなる

算数の学習に限らず、基礎的・基本的な知識を身につけておくことは、その後の問題解決に必ず役立つと考えています。また、苦手な内容を把握しておくことで、基礎・基本を自分たちの中でより確かなものとし、そこからさらに学習を深める態度を養うことができると考えています。

そのために、本文の問題以外の特設ページにおいても、個に応じた学習ができるようにしました。

特に児童が間違いやすい内容や苦手とする内容に関しては、「算数パトロール隊」のページを新設し、よくある間違い例を示すとともに、気をつけるべき注意点を示すことで、学びをふりかえりながら、どんなことに気をつければよいか分かるようにしました。



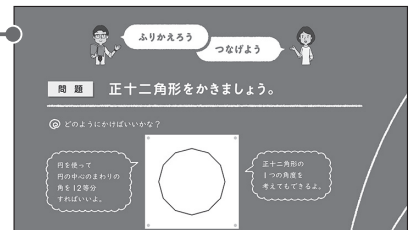
→ p.123

巻末では「もっと算数」の中に「ほじゅう問題」のページを設け、基礎・基本の確実な習得ができるようにしました。



→ p.231

特設ページとして、「ふりかえろう つなげよう」のページを設定し、これまでの学習をふりかえりながら統合的・発展的に学びを深め、次の学習へとつなげていけるようにしました。



→ p.154

3 見方・考え方を使いたくなる

問題を解決するとき、どのような見方をすればよいか、どのような考え方をすればよいかということをも身につけることも大切だと考えています。さらにそれ以上に、身につけた見方・考え方を使えるようになることが、今後の学習や生活の中で大変役立つものになると考えています。

そのために、よく使われる代表的な見方・考え方を「考え方モンスター」としてキャラクター化して、児童が使いたくなるようにしました。

本文中の適切な箇所に、どのような考え方をしているかを具体的に例示しました。また、各単元末では、「考え方モンスターでふりかえろう!」のページを新設することで、どのような場面で見方・考え方をを使って問題解決してきたかをふりかえりながら、単元の主な学習内容もふりかえることができるようにしました。



→ p.9

① 1箱には何個入っていましたか。
 xに10, 11, 12, ...を入れて、チョコレート全部の個数を、次の表を使って調べましょう。

x	10	11	12				
x × 2	20						
x × 2 + 3	23						

→ p.38

② はるどさんとさらさんは、円を細かく等分してならべかえました。2人の考えを説明しよう。

はるどさんの考え
 円を□等分して、□に□ならべかえました。

さらさんの考え
 257, 258ページの図を使って確かめよう。

高正宏
 公式のわかっていない三角形や正方形に変形しているね。

→ p.131

考え方モンスターで「ふりかえろう!」

① 次の図形で、いつでも拡大図、縮図の関係になっているのはどれですか。また、その理由を説明しましょう。

【二等辺三角形】 【正三角形】 【長方形】

【正方形】 【平行四辺形】 【ひし形】

【正五角形】 【正六角形】 【円】

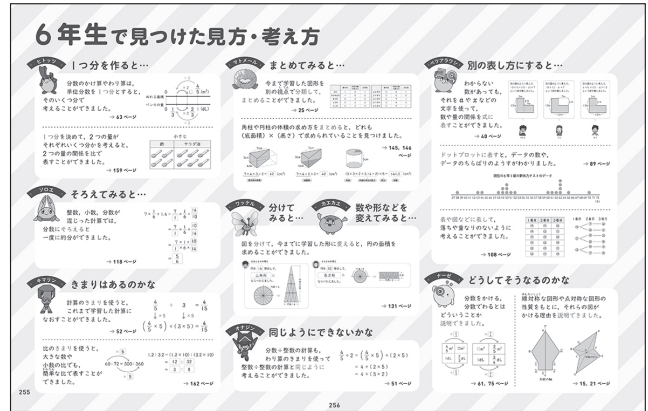
拡大図、縮図では、対応する辺の長さの比は等しい。対応する角の大きさは等しい。→ p.185

巻頭では、前学年でどんな「考え方monster」を見つけてきたかを領域ごとにまとめたページを設定しました。

また、巻末では、その学年で見つけた「考え方monster」を見方・考え方ごとにまとめるページを設定することで、異なる領域でも同じ見方・考え方を見つけてきたことがわかるようにしました。



→ p.10-11

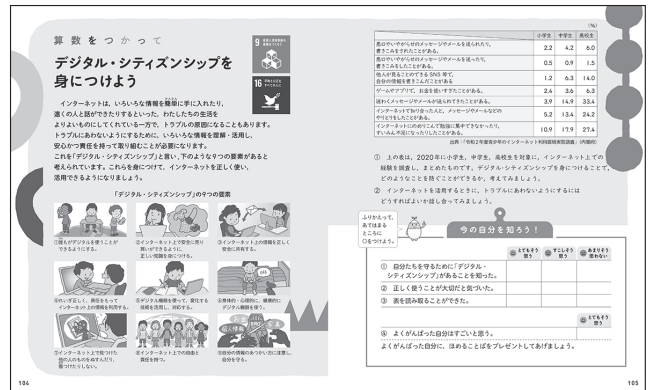


→ p.255-256

4 SDGs を考え、社会に目を向けたいくなる

算数で学習したことを算数の中で留めるのではなく、生活の中で活かすことができるようになることが大切だと考えています。特に、自分たちが学んできた算数が社会に役立つことを意識できるということは、学ぶ意欲にもつながるものだと考えています。

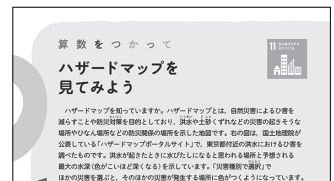
そのために、学期末に特設ページ「算数をつかって」のページを新設し、これまで学んできた算数の学習内容だけでなく、その問題解決の過程で見つけた見方・考え方や、解決のしかたを活用して、SDGsをベースとしたさまざまな課題に取り組むことができるようにしました。



→ p.104-105



→ p.210



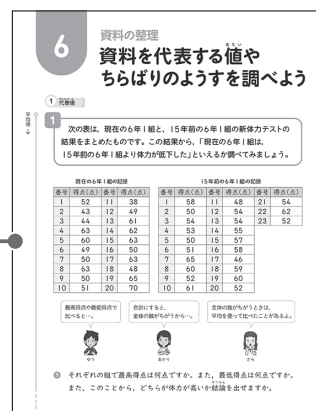
→ p.228

5 統計を使った課題解決をしたくなる

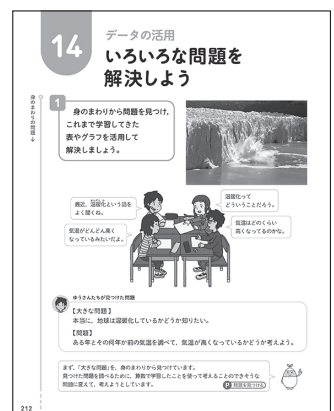
統計学習の充実には、これからの社会を生きていくために重要であり、表やグラフを学ぶだけでなく、何を、どのように、どう解決するかを考えていくことが大切だと考えています。

そのために、統計単元の学習は、「整理」と「活用」の2つの単元に分け、知識としての表やグラフを学ぶとともに、それをどう活用して問題解決に活かすかを学ぶことができるようにしました。

統計単元では、児童の話し合いから問題を見つけ、それを解決していく過程が見えるように、吹き出しや話し合いの場面を多く取り入れました。



→ p.87



→ p.212

観点別特色一覧

教育基本法の遵守	・教育基本法の趣旨を十分に反映した編集をしました。【全体】
学習指導要領の遵守	・学習指導要領に記載された内容をすべて網羅し、児童がより理解しやすいように配慮した編集をしました。【全体】
知識・技能の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動を通して学習を進めることで、知識・技能を教え込むのではなく、児童自らが率先して学びに取り組み、自然に知識を身につけ、さらに身についた学習内容を確認できるよう、練習問題を配置しました。【全体】 ・児童がつまずきやすい内容を扱う際は、段階的に理解できるようにすることで、すべての児童が無理なく知識・技能を身につけられるようにしました。【全体】 ・巻末に「もっと算数」のページを設け、補充的・発展的に課題に取り組むことができるようにしました。【巻末】
思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力を育むために、随所に多様な考え方を示しました。【p.46, 108 など】 ・言葉での説明、図や表を使った説明などの活動を随所に取り入れることで、さまざまな表現力を育むことができるように配慮しました。【p.76-77 など】
学びに向かう力の育成	・身のまわりの題材や、児童の興味・関心に応じた題材を扱うなど、積極的に算数の学習に取り組み、さらにそれを身のまわりの事象などに還元することができるように配慮しました。【p.30, 86 など】
主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に算数の学びに取り組めるよう、導入や各題材において、身のまわりや算数の学習の中で疑問に思うことを取り上げ、それを解決したいという気持ちが生まれるようにしました。【各単元導入など】 ・他者の意見を考察する場面や話し合いの場面を多く扱い、イラストなどでも補助的に話し合い場面を挿入することで、意識的に対話的な学びが実現できるようにしました。【p.49, 88 など】 ・巻末の「ふかめよう」や、特設ページとしての「ふりかえろう つなげよう」の学習において、これまで学んできたことを、統合的・発展的に深化できるようにしました。【p.124-125, 244-247 など】
見方・考え方の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの中から見方・考え方を見つけていけるように、代表的な見方・考え方を「考え方モンスター」として具現化し、適宜それを本文中に示すことによって、児童が自然に活用することができるように配慮しました。【全体】 ・巻頭では、「5年生で見つけた見方・考え方」をまとめたページ、巻末には、「6年生で見つけた見方・考え方」をまとめたページを設定し、さまざまなところで活用してきた見方・考え方が、どのような場面で扱われてきたかを振り返ることができるようにしました。【巻頭, 巻末】
学びの接続・系統・連続性	・単元の学習では、次の学びにつながる吹き出しを挿入することで、今日の学びが明日の学びにつながっていく算数の系統性を意識できるように配慮しました。【単元全体】
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・連続して扱うことで身につく学習内容と、スパイラルを意識することで身につく学習内容を選別し、より児童が学びやすいような単元配列になるようにしました。【全体】 ・本文と練習問題の分量のバランスや、無理のない時数配分に配慮し、児童が学習内容を確実に身につけることができるようにするとともに、つまずきやすい内容には十分に配慮した配列になるようにしました。【全体】
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末の「できるようになったこと」では、自己評価ができるようなチェック欄を設けるとともに、それが評価につながるよう配慮しました。【各単元末】 ・各学期末にパフォーマンス課題及びパフォーマンス評価の手法を取り入れ、個に応じた評価ができる場面を設けるとともに、自己評価もできるようにしました。【各学期末】
さまざまな教育課題への取り組み	・ICT 機器の使用について取り組んだり、食育などを考察する「算数をつかって」のページでは、デジタル・シティズンシップの課題や、栄養を考えた食事のあり方の課題、さらにはハザードマップを題材として取り扱いました。【各学期末】

ICT への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、活動や思考の補助になるようなデジタルコンテンツを用意し、タブレット等で活用できるようにしました。【全体】 ・プログラミング的思考を身につけるため、学年末に「プログラミングのプ」を設定しました。【p.226-227】
ユニバーサルデザインへの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・UD フォントを使用することで、これまで以上に読みやすく、すべての児童が理解しやすい文字になるように配慮しました。【全体】 ・すべての文章を分節改行にすることで、誰もが読み取りやすく、問題解決や思考に重点をおけるようにしました。【全体】 ・カラーユニバーサルの観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いをすることで、見やすく使いやすい紙面づくりに配慮しました。また、写真やグラフなどでは、色の名前を入れたり形を変えるなど、明確に区別できるように配慮しました。【全体】
人権への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーや人権に対し、差別を助長することがないように、男女のイメージが固定化しないようなイラスト・写真を使用したり、人種を問わないイラストを使用するなど配慮しました。【全体】
印刷・用紙・製本	<ul style="list-style-type: none"> ・AB 版を採用することで、開きやすく、作業や書き込みなどがしやすい製本としました。【全体】 ・用紙やインクは環境に配慮したものを採用しました。【全体】

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
①対称	B(1) ア(1) イ(7)	p.12-29	12
②文字と式	A(2) ア(7) イ(7)	p.30-43	8
③分数と整数のかけ算とわり算	A(1) ア(7) (1) イ(7)	p.44-57	8
④分数×分数	A(1) ア(7) (1) (ウ) イ(7)・内容の取扱い(1)	p.60-73	10
⑤分数÷分数	A(1) ア(7) (1) (ウ) イ(7)・内容の取扱い(1)	p.74-85	7
⑥資料の整理	D(1) ア(7) (1)	p.86-95, 98-101	6
○ふりかえろう つなげよう	D(1) イ(7)	p.102-103	1
○算数をつかって	D(1) イ(7)	p.104-105	1
⑦ならべ方と組み合わせ方	D(2) ア(7) イ(7)	p.106-116	6
⑧小数と分数の計算	内容の取扱い(1)(2)	p.117-123	5
○倍の計算～分数倍～	A(1) ア(7)	p.126-127	1
⑨円の面積	B(2) ア(7) イ(7)・B(3) ア(7) イ(7)・内容の取扱い(3)	p.128-142	7
⑩立体の体積	B(4) ア(7) イ(7)	p.143-147, 149-153	6
○ふりかえろう つなげよう	B(3) イ(7)	p.154-155	1
⑪比とその利用	C(2) ア(7) イ(7)	p.158-169	9
⑫拡大図と縮図	B(1) ア(7) イ(7)	p.170-185	9
⑬比例と反比例	C(1) ア(7) (1) (ウ) イ(7)	p.186-209	14
○算数をつかって	D(1) イ(7)	p.210-211	1
⑭データの活用	D(1) ア(ウ) イ(7)	p.212-217	3
⑮算数のまとめ	A・B・C・D	p.218-225	4
○プログラミングのプ		p.226-227	1
○算数をつかって	B(1) イ(7)	p.228-230	1
中学校へのかけ橋			
1 算数で見つけた見方・考え方	A・B・C・D	p.4-25	9

計 130 (予備時数 45)

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104 - 135	小学校	算数	算数	6
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
11 学図	算数 616・617	みんなと学ぶ 小学校 算数 6年・中学校へのかけ橋		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取り扱いに示す事項	ページ数
39	xにあてはまる数は？	I	A(2) ア(ア) 数量を表す言葉や□, △などの代わりに, a, xなどの文字を用いて式に表したり, 文字に数を当てはめて調べたりすること。	0.5
96～ 97	階級の幅を変えると？	I	D(1) イ(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し, データの特徴や傾向に着目し, 代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに, その妥当性について批判的に考察すること。	2
124～ 125	四則の可能性	I	A(1) イ(ア) 数の意味と表現, 計算について成り立つ性質に着目し, 計算の仕方を多面的に捉え考えること。	2
148	いろいろな形の体積比べ	I	B(4) ア(ア) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解する。	1
156～ 157	体積の大きさ	I	B(4) ア(ア) 基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解する。	2
245	おうぎ形の面積	I	B(3) ア(ア) 円の面積の計算による求め方について理解すること。	1
別冊 26～ 27	正負の数	I	第3 I(2) 第2の各学年の内容は, 次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため, 適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。 A(1) イ(ア) 数の意味と表現, 計算について成り立つ性質に着目し, 計算の仕方を多面的に捉え考えること。	2
28～ 29	正負の数の加減	I	第3 I(2) 第2の各学年の内容は, 次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため, 適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。 A(1) イ(ア) 数の意味と表現, 計算について成り立つ性質に着目し, 計算の仕方を多面的に捉え考えること。	2
30～ 33	文字式	I	A(2) ア(ア) 数量を表す言葉や□, △などの代わりに, a, xなどの文字を用いて式に表したり, 文字に数を当てはめて調べたりすること。	4
34～ 36	垂直な直線のかき方	I	第3 I(2) 第2の各学年の内容は, 次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため, 適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。 B(1) イ(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し, 構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに, その性質を基に既習の形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。	3

37	角の二等分線	I	第3 I(2) 第2の各学年の内容は、次の学年以降においても必要に応じて継続して指導すること。数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導すること。 B(1) イ(ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の形を捉え直したり日常生活に生かしたりすること。	I
38～ 44	ともなって変わる量	I	C(1) イ(ア) 伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して、変化や対応の特徴を見いだすとともに、それらを日常生活に生かすこと。	7
45～ 48	データ分析	I	D(1) イ(ア) 目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること。	4
				合計 31.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容